朝日連峰　天狗角力取山～障子ケ岳　小屋泊縦走

【山　域】 朝日連峰
【場　所】 天狗角力取山～障子ケ岳
【行動日】 10月12日(夜)～14日
【参加者】 CL 柘植秀樹　　SL 鈴木憲二　石橋きよみ　　菅井修　　加藤陽子
　　磯部菊子　　小俣順子　　澤田路子(記録)
【行動】
10 月 12 日(金)
千葉　→（東北道）　→ 福島松川パーキング　00:30着(仮眠)
10 月 13 日(土)
福島松川パーキング5:30発(車)　→ 南俣沢出合い　駐車場発8:40　→　猟師の水場着11:15　→ 粟畑着13:35　→ 天狗角力取山着　14:00　→　天狗小屋着14:15
10 月 14 日(日)
天狗小屋発6:30　→ 障子ケ岳着8:50　→ 紫ナデ着10:00　→ 渡渉地点12:45　→ 林道13:00 → 駐車場着13:15

【内容】
10 月 13 日（土）　曇り時々晴
二週間ぶりに天気が安定し、予定通りの山行ができることが嬉しいスタート。車を置いた南俣沢出合いの駐車場は3～4台がやっとのスペースだったが、少し歩いた先の時計回りコース登山口に近いところにもすでに7.8台停まっている広い駐車場があった。
この周回コースは日帰りで行く人も多いようだが、天狗小屋に泊まって朝日の山に浸るのも悪くない。
本日の行動が楽チンと思うと、それだけで歩き出しから気分も足も軽やかだ。
登山道入口の標識から急登と思ったら、すぐに沢沿いのカラマツ林の中をいく緩やかな道となり、高曇りで暑くも寒くもなく、おしゃべりも弾みながらの歩き出しである。秋の空気が気持ちいい。

登山口で記念写真

穏やかな森のなかの登り

しばらく行くと可愛い柴犬くんを連れたキノコ採りの男性とすれ違う。収穫物が入っているスーパー袋が重そうだったが、話しかけないでオーラが漂っていて情報取集ならず。
でもメンバーにきのこ達人もいるし、ひょっとしたら･･･と期待感。
周辺が若いブナ林になるあたりでも足元の落ち葉を除けばまだ新緑の森を歩いているようで、700ｍくらいからようやく紅葉前線が中腹まで降りてきた様相になる。
高度が上がるに連れ景色が開け、周りの山肌の紅葉は錦模様の絨毯のようと言いたいところだが、今年の紅葉は天候の影響で今一なのか、夏焼けや落葉も多く少し鮮やかさにかける。
右手には明日通過する紫ナデが見えてくる。

傾斜が急になるころ紅葉も進む

遠くに見える山は主稜線の粟畑

いつしか周辺は見事なブナの大木の森に変わる。おなじみのオオカメノキやコシアブラの葉も秋色。
ところどころ黄色いトンネルをくぐり、ナナカマドの真っ赤でこぼれそうな大ぶりの実に目を奪われながら、2本の小沢を超えると「猟師の水場」に到着。喉を潤しおしゃべりも弾む中、各々に小腹を満たす。
途中何人か逆回りで周回コースを歩く単独の男性登山者とすれ違う。朝早めの出発かもしれないが、それにしても健脚だ。
時々晴れ間が出てくるとぼんやりだった紅葉が鮮やかに輝き、さらに青空があれば完璧なのだが、何と言ってもお日様の光のライティング効果は偉大だ。
この辺りの登山道の両脇のシャクナゲは膝くらいの低木で、低いブナの枝の地面につきそうなしなりはやがてくる厳しい季節の豪雪を思わせる。
右手には明日登る朝日連峰一の大スラブ岩壁を有するという障子ケ岳の均整の取れた鋭峰が、なかなかの迫力で目に飛び込んでくる。この先はながめのいい稜線歩きになり、遠くには雲のかかる月山、鳥海山らしい山々の連なりも霞んで見える。

明日縦走する稜線も雲の中で残念

粟畑直下の広場

尾根沿いのゆるいアップダウンの巻道が続いた後、最後のひとのぼり。粟畑直下の広場に出たところで今日泊まる天狗小屋の小屋番さん2人と出会う。フレンドリーに「先に行って8人分のスペースをとっとくよ」と長靴で軽やかに登って行く。この時みんなの疑問だった粟（くり）畑か栗粟（あわ）畑かを小屋番さんに聞いてみると、国土地理院の地形図も昭文社も粟畑とあるが、正解は粟とのこと。痩せた土地でも育つ粟の畑があったのか？
その先の広場のような粟畑までの登りが古い整備された石畳になっていることや、天狗角力取山に土俵があるという話は粟畑と合わさって、歴史を感じ昔に思いをはせる。石畳脇にイワカガミやリンドウ、マツムシソウが可憐に一輪ひっそり咲いているのもお似合いだ。
途中左手下に今日泊まる立派な天狗小屋が見え、ゴールは近いぞ！と足どりも軽くなる。
粟畑の広場に続き、その先にも整地したような明るい広場がポット開け、小石が相撲の土俵のように並べられている。天狗が相撲をとったという伝説があるらしい。
天狗岳山頂ではまたまた運よく一瞬ガスが晴れて朝日連峰の全容が眺められ、ゴールにふさわしくみんなのテンションも上がる。
小屋に向かいながらこの土俵を再び通過する時、リーダーは何を思ったか報告の写真用に女相撲もどきをやれとおっしゃるが、あまりにキャスティングがリアルなので大人気なく断固拒否。
わずか一下りで本日のお宿天狗小屋だ。
1階には天狗のお面が飾られている。

天狗の相撲取り場（土俵と仕切線あり）

大賑わいの小屋のなか

小屋から15m という水場で水を確保し、小屋番さんの指示通り2階のあてがわれたわがパーティーのスペースに陣取って、夕食までアルコールやあったかお茶タイムでのんびりする。早めに着くとこの時間が何ともいい。すでに2～3人のパーティーや12人の団体さんもいて、最終的には一人自分のマット分のスペースで足が重なりながら寝る混み具合だった。一応定員20人と記載があった小屋だが、二週間ぶりの好天の週末、紅葉狙いの時期でもありこの混み具合は想定内のことなのだろう。
小屋番さんたちは1階でどっさり収穫してきたブナハリ等きのこのご馳走作りに余念がなく、おすそ分けもいただいた。同じような道を登ってきても見える人にはそこここにきのこがどっさりだったのかも。
5時半過ぎにはシュラフに潜り込んでぬくぬくと眠りにつく。
夜は満点の星、まちのあかりもキラキラと翌日の天気を約束するようだったらしい。

10 月 14 日（日）　曇り晴れ間　時々ガス
4 時半起床予定が5時起床。しかし寝ている人が皆起きないと食事作りのスペースは確保できないくらいの環境なので、5時には自然とみんなが起き出し支度にかかる一斉起床だった。
身支度を済ませ小屋の外に出た時「協力金は1500円」と張り紙があったようだが、請求もされていないし、誰も払っていないということに気付き、慌ててこちらから払いに戻る。
室内は清潔に保たれ、水洗トイレで、立地のいい快適な避難小屋で、こんな風に維持されているのは有難い。6 時半のスタート時は朝特有のガスなのか展望は全く無し。
昨日通過した粟畑あたりでは少しガスが晴れてきて、遠く葉山、月山なども見える。

小屋をバックに稜線まで戻る

左下天狗小屋、遠く朝日の主稜線

前方には主脈北部の以東岳から後方には寒江山、竜門山、大朝日、祝瓶山、と朝日連峰の全容が我々をじらすように見えたり隠れたり。
少し下ると草紅葉の小さな湿原に癒され、その先は東側がすっぱり切れて展望のきく痩せた尾根が続く。道はしっかりして心配なく晴れ間が出たり、ガスったりに一喜一憂しながら障子ケ岳山頂に向かう。風もなく気持ちいい。

朝日連峰きっての鋭鋒障子ヶ岳

障子ヶ岳の山頂

障子ケ岳山頂からは朝日連峰の迫力ある主稜線がガスの上に頭を連ねる。小障子あたりで完全にガスが晴れ、急峻な谷には雪渓が光り、遠くまで稜線の縦走路がくっきり見える。

祝瓶山～大朝日岳～寒江山方面

以東岳方面の展望

小障子への登り（背後は障子ヶ岳）

紫ナデへの爽快な縦走

大井沢の谷底に雪渓が光る

障子ヶ岳東面の大スラブ

ちょっと変わった名前の紫ナデは小ピーク。ナデは雪崩を意味し本来は岸壁部の名称と思われるとガイドにあった。ここからは樹林の中を急な下りが続き途中からはブナ林に癒されつつ、ザレた急斜面もあり、ここぞという箇所にあるタイガーロープに助けられる。
しだいに沢音が近くなり、600m くらいで大井沢川の枝沢（向沢）を飛び石で渉るといよいよ車まであと一息だ。水量によっては、靴を濡らすか脱ぐかを強いられるところだろう。
ここからひと登りで林道、そして15分も歩いた頃車のところに到着して「お疲れさま！」
パッキングも早々にお財布にやさしい300円の「ゆったり館」で汗を流し、ツルツルになって帰路につく。

今回の枝尾根コースは大朝日岳から以東岳まで山形の屋根と言われる朝日連峰の主稜が眺められる知られざる展望コースなのだとか。
シルバーパーティーには手軽に朝日連峰の良さを堪能できるなかなかのコースであり、さらに天狗小屋泊にすれば、ゆっくりペースで山に浸れるのもおすすめだ。
久々に朝日の魅力を再認識した今回の山行、リーダーのコース選定の目利きと終始和気藹々と楽しく歩けたジェネレーションの近いメンバーの皆さんとに感謝。
というのもジェネレーションギャップを実感することの多い年齢に突入したからかも（蛇足）

おまけの写真（NETからの借用写真）

天狗小屋

天狗のお面